

(参考 1) 学校に通学して学ぶ意味とは…

将来の教育活動では、リモート授業や AI 等を活用して児童・生徒に個別最適化した学習内容を示すソフトウェアの普及によって、「知識の習得」は ICT を活用した教育活動が優位になっていくことが想定されます。

しかし、教育の目的が「人格の完成」であることを考えたときに、町田市では、多様な価値観を持つ児童・生徒が学校に通学することで、協働的な学習はもとより、学校生活そのものを通じて集団で話し合ったり励まし合いながら、ともに学び、ともに生活する中で、思考力・判断力・表現力や社会性・人間関係を形成する力といった資質・能力を育むことが、学校に通学して学ぶ意味だと考えています。

(参考 2) まちだの新たな学校づくりで学校施設はどう変わる？

推進計画では、新たな学校づくりを実現するために様々な施設機能を刷新することを整備方針として定めました。その中でも協働的な学習を促進するうえで重視している「普通教室」と「ラーニングセンター」と、学校と地域・保護者が協働する拠点となる「コミュニティルーム」について、その整備のポイントと整備イメージをご紹介します。

整備ポイントその 1 協働的な学習を重視した普通教室の機能拡充 ※3～4 ページイラスト参照

- ① 机の配置を自由に変えて協働的な学習をしやすいするために、原則として、小学校ではオープンスペースを整備するものとし、中学校では従来の面積の約 1.2 倍（約 80 m²）の面積で整備します。
- ② 普通教室の前面や壁面は、大型提示装置等の ICT を積極的に活用した多様な学習活動と掲示スペースの確保を両立させるためにホワイトボードを整備します。
- ③ 机周辺にある荷物を収納して協働的な学習がしやすいするために、拡大した普通教室内に、児童・生徒の学用品を収納できる十分なスペースを確保します。

整備のポイントその 2 ラーニングセンターの整備（図書室の機能拡充） ※5 ページイラスト参照

図書室について、従来の図書の閲覧スペースに加えて、図書や多様なメディアを活用しながら協働的な学習を展開することができる「ラーニングルーム」を備えた「ラーニングセンター」として整備します。

このラーニングセンターは、教育活動の拠点であることを基本としつつ、放課後活動または地域開放等で活用することを想定した位置に配置します。

整備のポイントその 3 コミュニティルームの整備 ※6 ページイラスト参照

コミュニティスクールにおける学校運営協議会をはじめとした学校と地域が協働する拠点及び学校支援ボランティア等の活動・準備・更衣スペースとなるコミュニティルームを整備します。

(参考 3) 市立小・中学校の統合を行わない場合との事業費比較（2021～2055 年度）**① 統合を行った場合の事業費**

工事区分	校数	事業費
建替え	33	2,088.5億円
増 築	1	5.4億円
長寿命化改修	4	149.9億円
上記以外の改修	－	297.9億円
合計	①	2,541.7億円
比 較（金額）	①-②	△872.9億円
比 較（比率）	①/②	74.4%

② 統合を行わない場合の事業費

工事区分	校数	事業費
建替え	42	2,438.6億円
増 築	0	0.0億円
長寿命化改修	17	636.9億円
上記以外の改修	－	339.1億円
合計	②	3,414.6億円

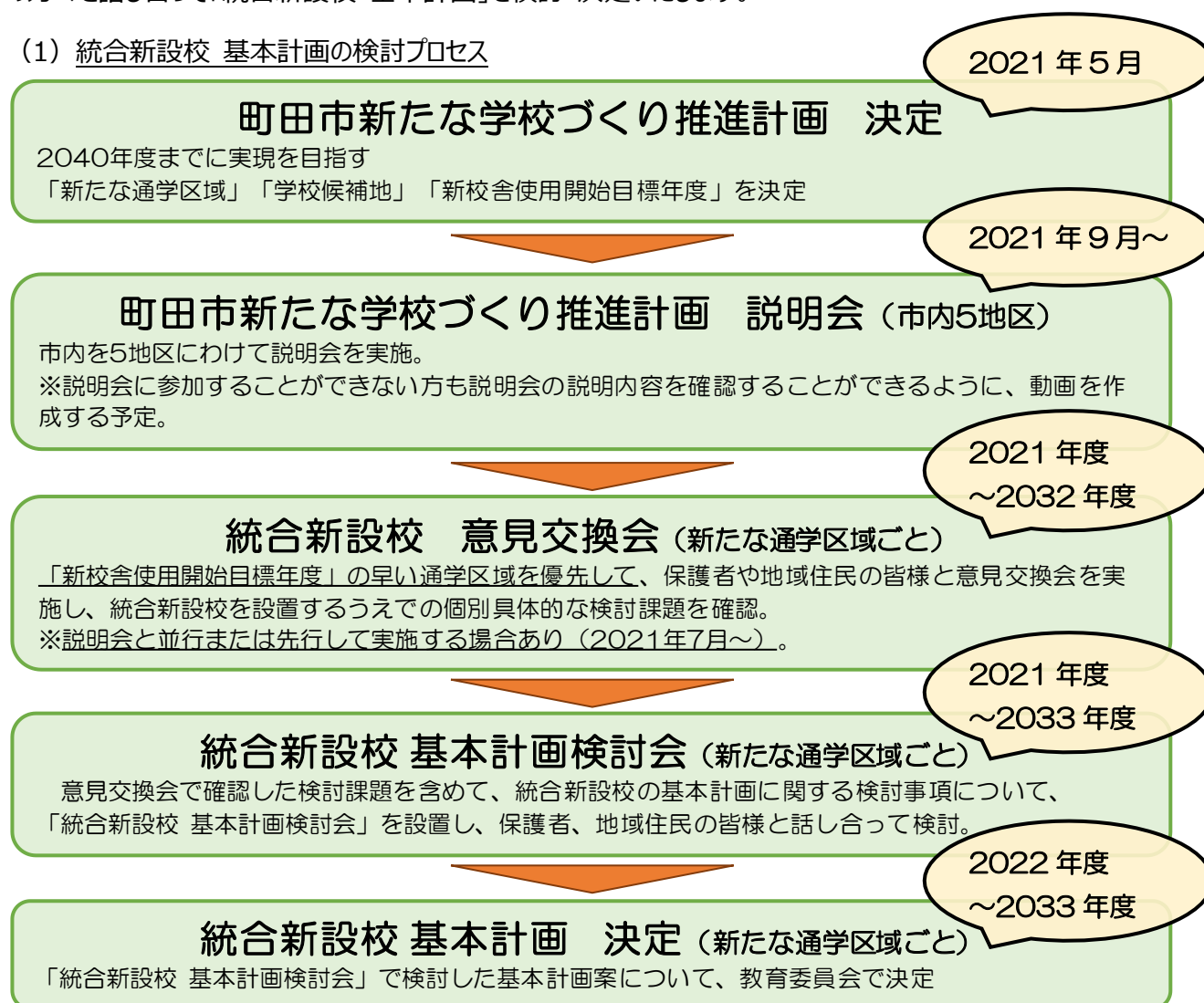
(参考 4) 推進計画策定後のプロセス

推進計画の策定後、説明会の広報を一定期間行ったうえで市内を5地区にわけて説明会を実施します（できるだけ多くの方にご参加いただくために、7月～8月に広報・周知を行ったうえで9月以降に実施）。

しかし、説明会では個別具体的な通学区域の単位で意見交換をすることが難しいことから、推進計画31ページに掲載している「新校舎使用開始目標年度」の早い通学区域を優先して、保護者や地域住民の皆様と意見交換会を行って、学校統合に向けた個別具体的な検討課題を確認いたします（2021年度着手予定の通学区域は2021年7月以降に開催）。

そして、確認した検討課題を踏まえて「統合新設校 基本計画検討会」を設置し、保護者、地域住民の代表の方々と話し合っ「統合新設校 基本計画」を検討・決定いたします。

(1) 統合新設校 基本計画の検討プロセス



(2) 統合新設校 基本計画の主な検討事項

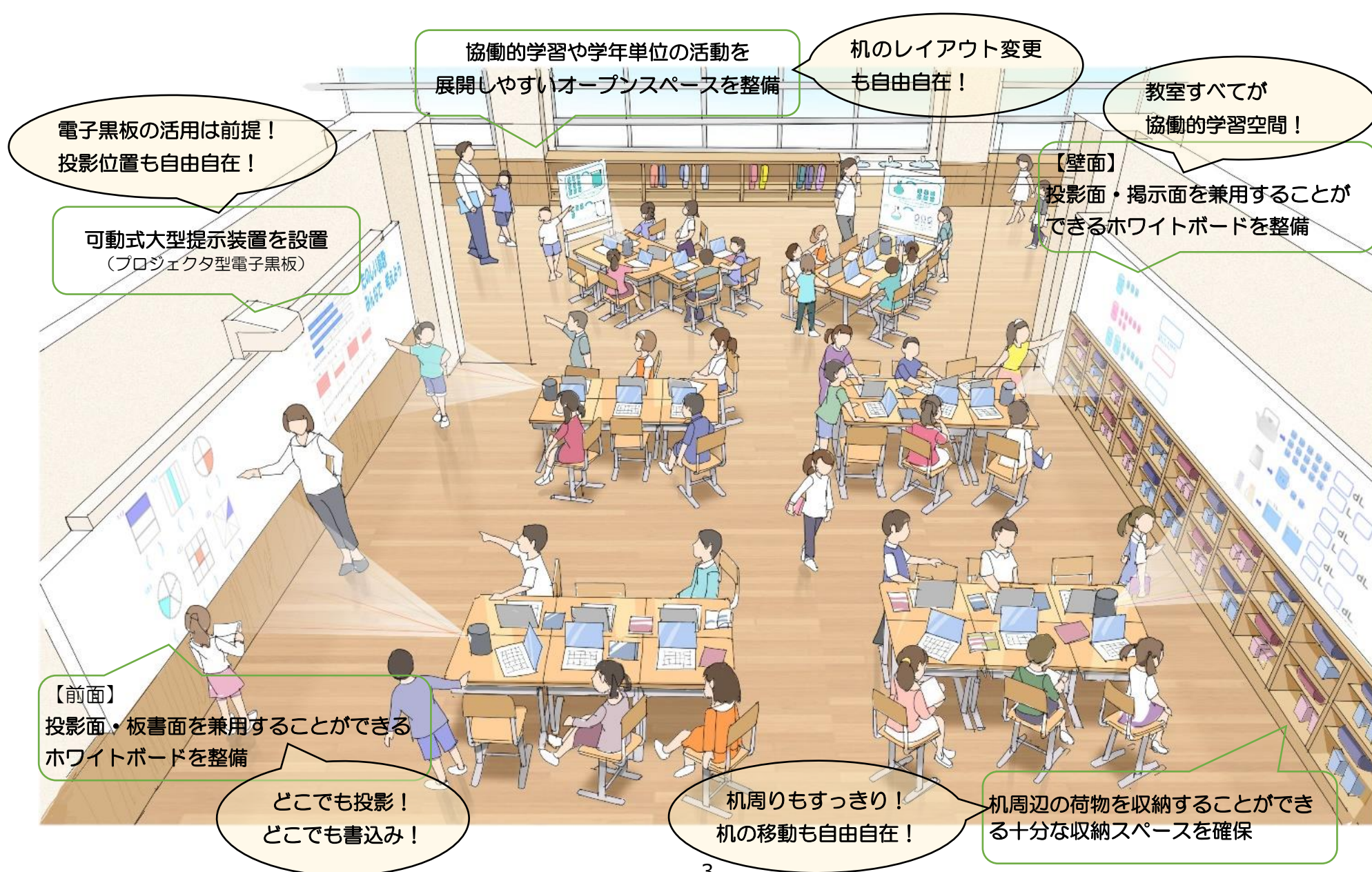
- ①統合新設校の学校名や教育目標
- ②通学区域変更時の教育的配慮
- ③通学の負担軽減・安全対策
- ④統合する学校の歴史の継承
- ⑤新校舎建設基本計画

※上記以外に、各地域における意見交換会で出た課題についても検討

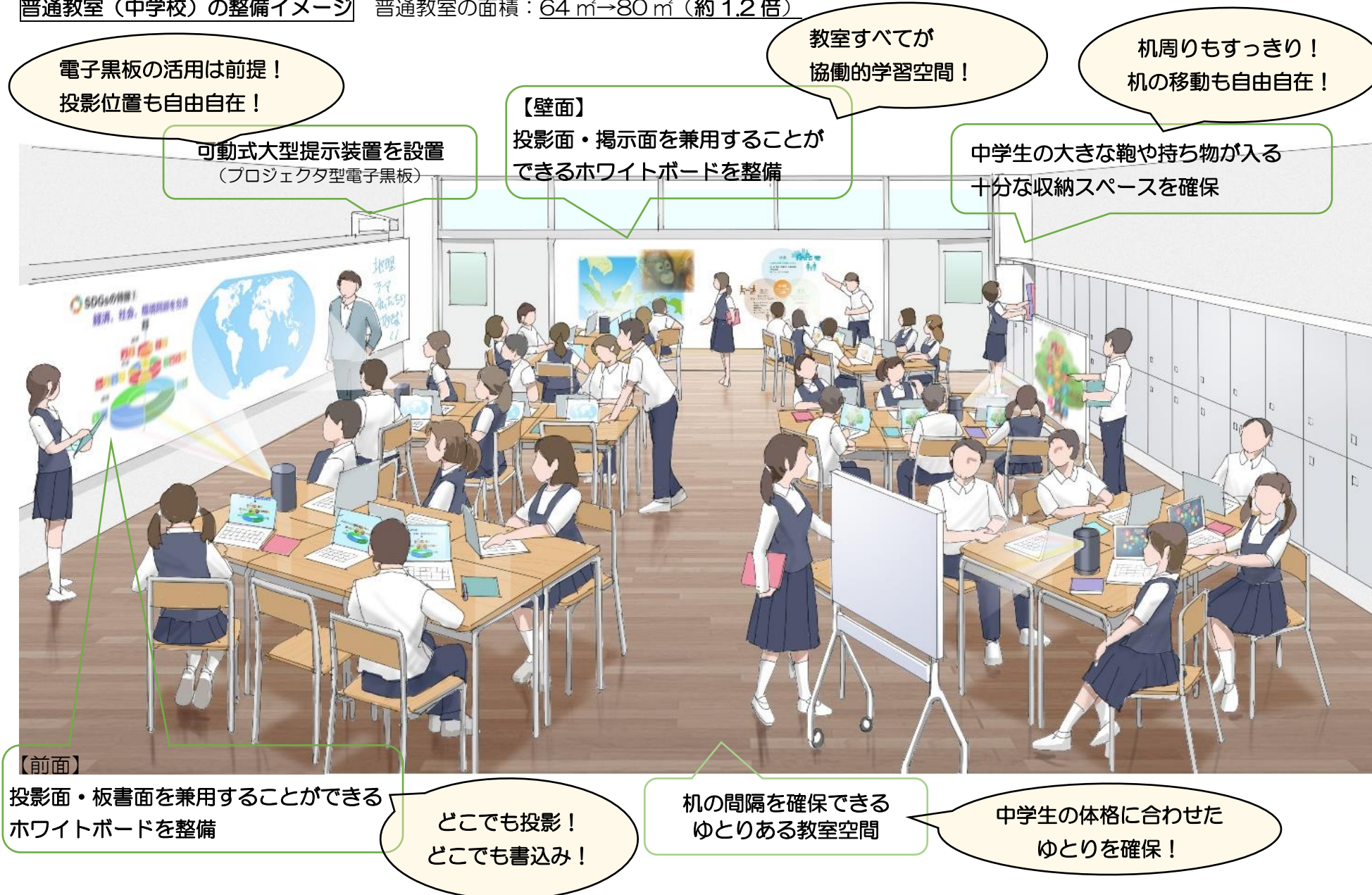
普通教室（小学校）の整備イメージ

普通教室の面積（オープンスペースあり）： $64\text{ m}^2 \rightarrow 110.5\text{ m}^2$ （約 1.7 倍）

オープンスペースなし： $64\text{ m}^2 \rightarrow 72\text{ m}^2$ （約 1.1 倍）



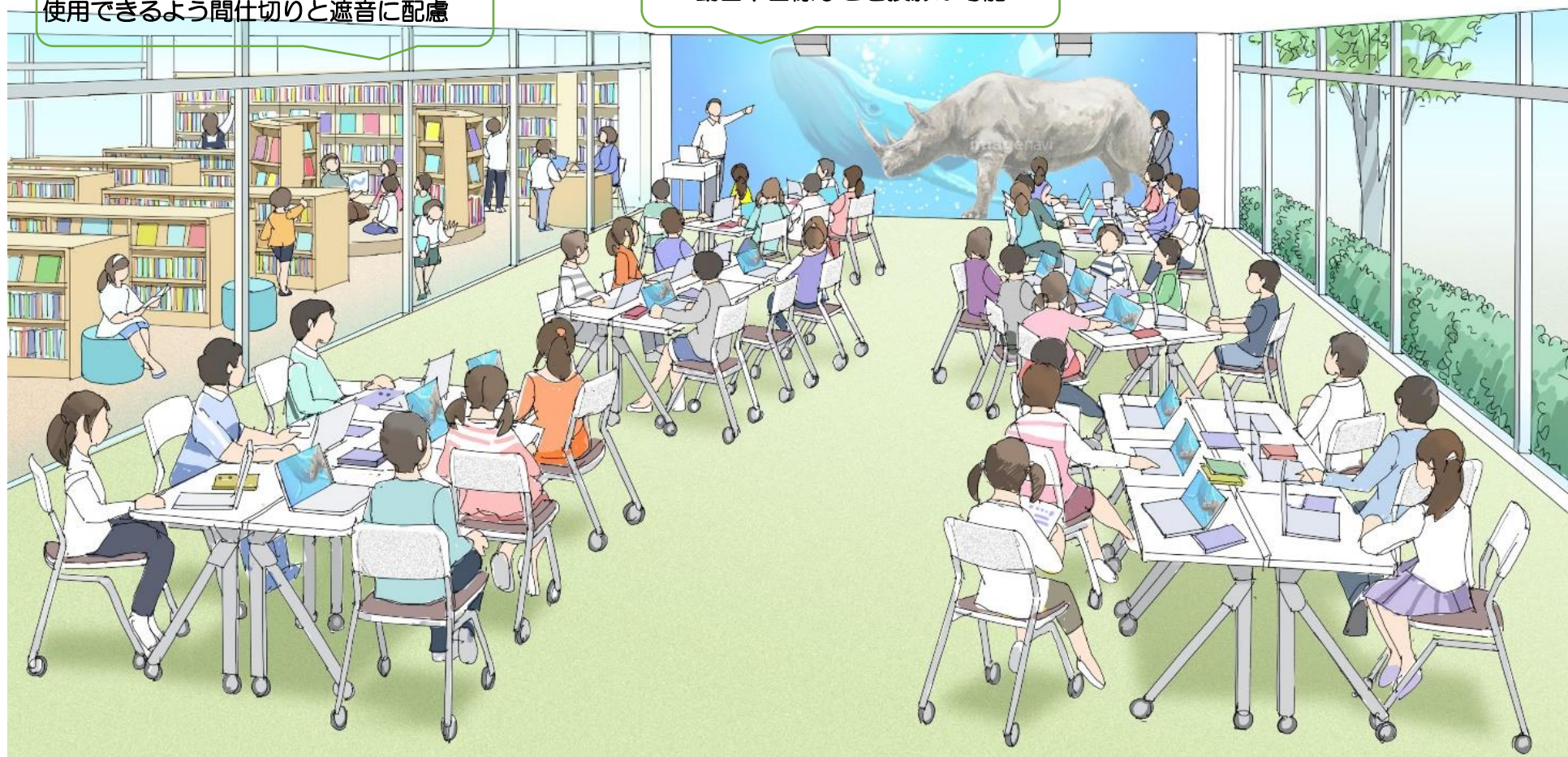
普通教室（中学校）の整備イメージ 普通教室の面積：64㎡→80㎡（約1.2倍）



ラーニングセンター（ラーニングルーム）の整備イメージ

図書室の閲覧スペースを同時に
使用できるよう間仕切りと遮音に配慮

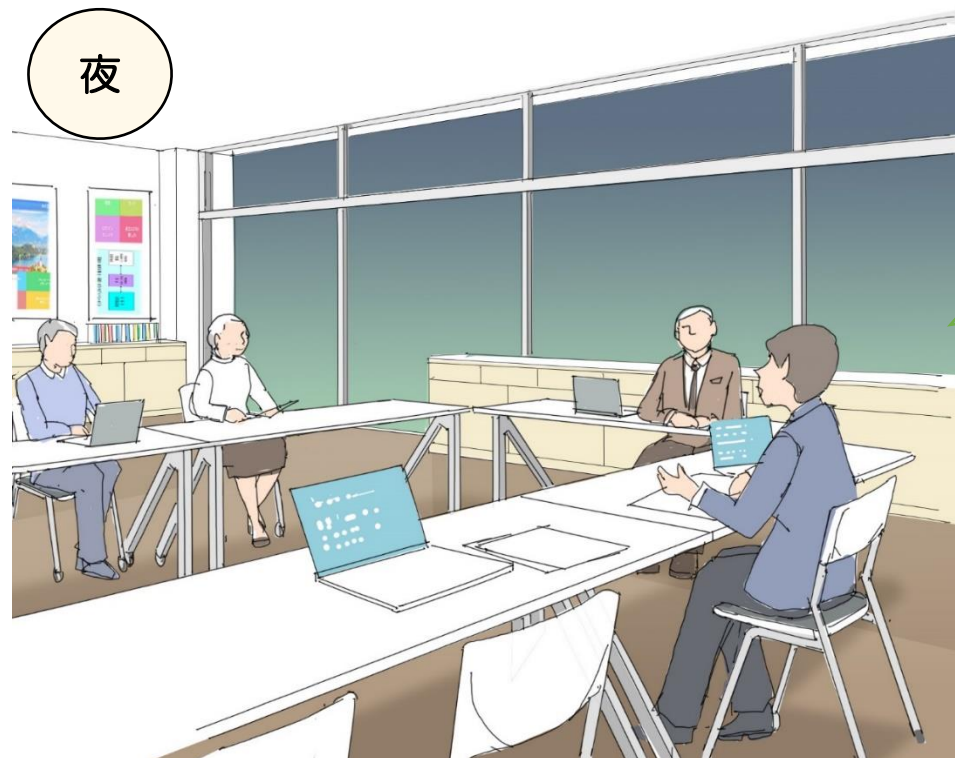
大型提示装置で壁面全体に
動画や画像などを投影が可能



可動式の机や椅子を使用し、
普通教室よりも多様な学習活動の展開が可能

コミュニティルームの整備イメージ

夜



学校と地域が協働して
活動する拠点を確保！

学校運営協議会（コミュニティスクール）を
はじめとした学校と地域の会議スペースとして使用

学校の教育活動を支援するボランティアの打ち合わせや
活動の準備スペースとして使用

多世代の学校支援ボランティアの
活動拠点を確保！

昼

